◆こどもの人権を尊重した保育をめざして

幼児期は、自然な生活の流れの中で直接的・具体的な体験をとおして、人格形成の基礎を培う大切な時期です。この時期に、こども一人一人が、個人としてその多様性が尊重され、自己肯定感や自尊感情を育むことは、人権教育の第一歩であるといえます。「人権教育推進の手引」(栃木県教育委員会)には、幼児の人権教育の目標として、「人権尊重の精神の芽生えとしての感性やよりよい人間関係をつくろうとする基礎的な態度を育てる」とあります。こども自身が「大切にされている」と感じられる関わりを積み重ねていくこと、そして、身近な自然や動植物と触れ合う体験をとおして命の大切さを知ることは、人権意識を身に付ける基礎となります。

幼児教育の基本である「環境を通した教育」を行う中で、こども自身の「好き」や「やりたい」、「できる」といった思いが大切にされ、関わる大人から支えられることによって、自己肯定感や自尊感情が育まれていきます。自分が大切にされていることを実感することで、人と一緒にいることの心地よさを知り、「自分も大切、相手も大切」という感覚が醸成されます。それらがやがて、他者の存在や自分との違いに気付き、受け止め、互いを尊重しよりよい人間関係をつくっていこうとする意識へとつながっていきます。

このチェックシートは、「人権教育推進の手引」(栃木県教育委員会)にある人権教育推進の三つの内容から、幼児期に扱う「人権が尊重された雰囲気や環境に関すること」「豊かな人間性に関すること」(※幼児の場合、原則として「人権意識に関すること」の内容は扱わないとされています)について、実際の保育の場面を想定し、作成したものです。人権感覚の基礎となる自尊感情を育むことができるような保育者の関わりについて例示し、先生方が人権意識を高め、自らの保育を振り返ることを目的としています。実際の保育場面では、「人権が尊重された雰囲気や環境」を構成することで、こどもたちの「豊かな人間性」が育まれていくため、2つの内容において類似したチェック項目が出てくることを御承知おきください。日頃、意識せず行っている先生方の援助が、人権教育につながっていることを再確認するとともに、こどもの豊かな人間性を育み、人権意識を高めていけるよう、自己点検や園内研修等で御活用ください。

◆チェックシートの見方

◆人権が尊重された雰囲気や環境に関すること(一人一人を大切にした雰囲気や環境づくり)

○保育者とこどもの間での信頼を育み、安心感の基盤を築いていますか。

□こどもの言動を肯定的に見取り、温かい見守りと適切な援助をしていますか。

例)やりたいことや思いが実現できるよう提案する、環境をつくる、友達とつなぐ。



□名前を呼ぶ・個を認める働きかけをしていますか。

例)「○○さん、おはよう。」「○○さんが来てくれてうれしいよ。」

□温かなやり取りやスキンシップを積み重ね、こどもが安心して過ごせるようにしていますか。

例)応答的なふれあい、手をつなぐ、安心できる空間づくり。

□こどもの声を聞いた(取り入れた)活動をしていますか。

□こどもの話を最後まで聞いていますか。また、他のこどもの対応などで聞けない場合は、どのくらい待ってほしいかなどを具体的に伝えていますか。

□自己発揮できる、受容的な雰囲気を作っていますか。

例)「○○さんは、そう思ったんだね。」「□□さんは、どう思う?」

チェック数 ／6

コラム1

秋の公園に遊びに行き、たくさんの落ち葉やどんぐりを拾ったこと
作れるって言ってた!」と声を挙げた子を皮切りに、拾ったどんぐりを
る子、ペットボトルに入れて音を出す子、おもちゃを作ろうとする子・・
ようにしてコンクリートの部分で潰しているAさん(4歳児)がいました

できている、心がけていると思うものの□にチェックを付けましょう。

チェックが付いた数を数えて記入しましょう。チェック数が多いほど人権を意識した関わりができています。

より具体的な場面をイメージしやすいようコラムを設けました。コラムに示された保育者の関わりを参考に、自分がこの保育者の立場だったらどのように関わるかを考えるなどして、日常の保育のヒントとしていただければと思います。

◆人権が尊重された雰囲気や環境に関すること（一人一人を大切にした雰囲気や環境づくり）

〇保育者とこどもの間での信頼を育み、安心感の基盤を築いていますか。

□こどもの言動を肯定的に見取り、温かい見守りと適切な援助をしていますか。

例）やりたいことや思いが実現できるよう提案する、環境をつくる、友達とつなぐ。



□名前を呼ぶ･個を認める働きかけをしていますか。

例）「〇〇さん、おはよう。」「〇〇さんが来てくれてうれしいよ。」

□温かなやり取りやスキンシップを積み重ね、こどもが安心して過ごせるようにしていますか。

例）応答的なふれあい、手をつなぐ、安心できる空間づくり。

□こどもの声を聞いた(取り入れた)活動をしていますか。

□こどもの話を最後まで聞いていますか。また、他のこどもの対応などで聞けない場合は、どのくらい待ってほしいかなどを具体的に伝えていますか。

□自己発揮できる、受容的な雰囲気を作っていますか。

例）「〇〇さんは、そう思ったんだね。」「□□さんは、どう思う？」

チェック数

／6

コラム1

秋の公園に遊びに行き、たくさんの落ち葉やどんぐりを拾ったこどもたち。園に戻ると、「お兄ちゃんが、どんぐりでコマを作れるって言ってた！」と声を挙げた子を皮切りに、拾ったどんぐりを使って思い思いに遊び始めます。どんぐりを机に並べる子、ペットボトルに入れて音を出す子、おもちゃを作ろうとする子･･･。そんな中、どんぐりを外に持って行き、地団駄を踏むようにしてコンクリートの部分で潰しているＡさん(4歳児)がいました。

〈保育者の関わり〉

踏み潰したどんぐりを見つめるＡさんの目線に合わせしゃがみ込み、「何をしているの？どんぐりを割っているのかな？」と優しく声をかけました。



〔その後･･･〕

Ａさんは、ひび割れたどんぐりを剥くと、白っぽい種子が出てくることに気付いたのです。しかし、ひびが入っていないどんぐりの皮は、Ａさんの力では剥けません。そこで、固い殻を取るために、コンクリートで踏んで殻を割ることを思いついたのです。踏んで割ったどんぐりの殻を剥くと、「中からピーナッツが出てきた！」と大喜び。しかも、割れていたどんぐりは中が黒ずんでいたのに対し、自分が割ったどんぐりは白くてきれいなまま。新たな発見をうれしそうに保育者に話すＡさんでした。



〇こどもの自己発揮を促し、一人一人の発達や興味・関心に応じて、保育環境を意図的・計画的に整えていますか。

□こども自身が「好きなもの」や「得意なこと」を見つけられるように、環境を構成するよう心がけていますか。

□「選べる」「自分で決める」体験を意識して取り入れていますか。

例）遊びや給食の席など、自分で選ぶ機会をつくる。

□こどもが自発的に関わり、「できた」という経験が積み重ねられるよう、環境を整えていますか。

例）座って履き替えられるようにこども用ベンチを設置する、片付けるものが分かるよう写真で示す。

□発達に適した教材が、意図的に配置されていますか。

例）使ってよい素材や道具が決まった場所にある、使うときのルールが示されている。

□危険な場所や状況、安全な行動について、こども自身が判断できるような機会をつくっていますか。

チェック数

／5

コラム2

砂場で大きな山を作っていた5歳児の B さんと C さん。完成後は、頂上から水を流し始めました。B さんは、じょうろを持って水道を行ったり来たり。C さんは水の流れに沿って、山のそばに池を作ろうと砂を掘り始めました。そこへ、D さんがやって来て、手に持っていたじょうろの水を山の頂上から流そうとします。それを見ていた C さんは、D さんのじょうろを押さえ、「やめて！」と声を上げました。

〈保育者の関わり〉

C さんと D さん、双方の気持ちを丁寧に聞き取りました。D さんは、「面白そうだったから真似した」と話してくれましたが、C さんは、頑なに首を横に振り「やめて」「だめ」を繰り返します。

保育者は、C さんの表情や言葉から「二人で作ったから邪魔されたくない」「一生懸命作ったものを壊されたら嫌だ」という思いなのではないかと捉えました。そして、今ここで二人を無理につなげるよりも、それぞれの遊びを満足させようと考えました。そこで、D さんを別の砂場に促し、保育者と一緒に山作りから始めようと提案したのです。

〔その後・・・〕

保育者と D さんを見送った C さんは、砂掘りを再開します。一方 B さんは、二人と先生のやり取りを横目に、黙々と水運びを続けており、徐々に C さんが掘った穴に水が溜まり始めます。やがて、池が完成！満足そうな表情を浮かべた C さんは、保育者の所へ完成報告に向かいます。山作りを終えていた保育者と D さんが池を見に来ると、頂上から水を流して溜まっていく様子を得意そうに実演する C さん。保育者や D さんの「すごい！」の一言に、「ここから流してみて！」と D さんにじょうろを渡す C さんなのでした。B さんは、そんな二人を尻目に、さらに大きな池を作るための水運びを再開していました。





〇友達とのふれあいを通じて、互いに認め合う関係性を築けるようにしていますか。



□必要に応じて、友達の思いや考えを言葉にして代弁していますか。

例）「〇〇さんは貸してって言いたかったんだね。」

□遊びや生活の中で友達同士の自然な関わりを促していますか。

□ルールがある遊びを取り入れていますか。

例）「次は〇〇さんね」「3つ数えたら交代しよう。そうしたら、みんな楽しめるね。」

□自分の意見が安心して言える場を作っていますか。

例）「〇〇さんはこう言ってるよ」「なるほど、いいアイデアだね！」

□話合いでの意思決定を取り入れるなどして、お互いの思いを伝え合う機会を設けていますか。

例）「どうしたらみんなで仲良く遊べるかな？」「どうしたらいいと思う？」

□遊びや生活の中で、こどもの得意なことを生かすなどして、一人一人が活躍できる場面を作っていますか。

例）「虫のことは、〇〇さんが詳しいからきいてみよう」「〇〇さんは、絵が得意だから看板作ってくれる？」

チェック数

／6

総チェック数　一人一人を大切にした雰囲気や環境づくり　／17

コラム3

園庭で、キックボードで遊んでいたEさん。そこへFさんが「貸して！」とやって来ます。Eさんは、「少し遊んだら返してね」の言葉と共にFさんに貸してあげました。Fさんを気にしながら待つEさんですが、返してくれる気配は一向にありません。声をかけても「もうちょっと！」を繰り返すばかり。しびれを切らしたEさんは、何かを考える素振りを見せた後、様子を見ていた園長先生に「タイマーを貸してください！」と頼みに来ました。

〈保育者の関わり〉

必死な様子のEさんに目線を合わせ、「どうして？」と優しく問いかけます。すると、Eさんは「時間を計ったら順番に使えるから！」と得意げに話します。Eさんは、Fさんも納得できる形で、気持ちよく交代できる方法を考えていたのです。「Fさんが貸してくれない！」と訴えるのではなく、公平にお互いが楽しめる方法を求めたEさん。

「なるほど！いくつ必要？」

「2つ！」

「今1つしかないから、取りあえず1つでいい？」

「うん！」



〔その後・・・〕

Eさんは、貸してもらったタイマーを握りしめ、友達の元へ。時間で交代することを提案します。友達も、「いいアイデアだね！」と賛同してくれ、交代で遊び始めました。すると、Eさんはキックボードに乗らずにタイマーの計測係を続け、その日の外遊び中、ずっとタイマーを離さないのでした。片付けの時間には、園長先生と相談し、秘密の場所にタイマーをしまうEさんでした。

◆豊かな人間性に関すること（こどもの人権感覚を育てる）

○生命を尊重する心





- □自然に触れる体験や身近な動植物と関わる活動を設定していますか。
- □こども自身が主体的に関わり、命の大切さを感じられる機会をつくっていますか。

例）飼育した青虫が越冬することをとおして、生命の大切さに気付く。

チェック数 ／2

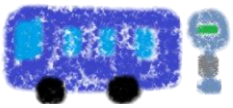
○他人を思いやる心



- □友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合えるように援助していますか。
- □友達との関わりを深め、相手の思っていることに気付けるように援助していますか。
- □友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わえるようにしていますか。
- □友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもてるような活動をしていますか。

チェック数 ／4

○正義感や公正さを重んじる心



- □公共施設を利用するなどの経験をとおして、こどもがマナーやルールを知る機会を設定していますか。
- □交通ルールなどの社会的なルールについて、体験する機会を設けていますか。
- □みんなが心地よく生活するための約束やきまりについて、こどもたちと話し合っていますか。

チェック数 ／3

○個性を認め合う心



- □一人一人のよさについて、こどもたちがお互いに気付くことができるよう、取り上げて褒めていますか。
- □こどもが、自分の気持ちだけでなく相手の気持ちも大切にしながら、友達と折り合いをつける経験ができるようにしていますか。

チェック数 ／2

○他者との共生や異質なものへの寛容性



- □高齢者をはじめとした地域の人など、自分の生活に関係の深い様々な人々と関わる活動を行っていますか。
- □外国の文化や障害、家族の形についての絵本を読むなど、多様性に触れる活動を行っていますか。

例）外国から来たこどもの母国の料理を給食の献立に取り入れる、外国の遊びを体験する。

チェック数 ／2

総チェック数　こどもの人権感覚を育てる　／13

